発行 あきる野市 〒197-0814 あきる野市二宮 350 編集 企画政策部市長公室（☎042－558－1111） ホームページ https://www.city.akiruno.tokyo.jp/

令和６年
２月15日号
広報
No.735

あきる野

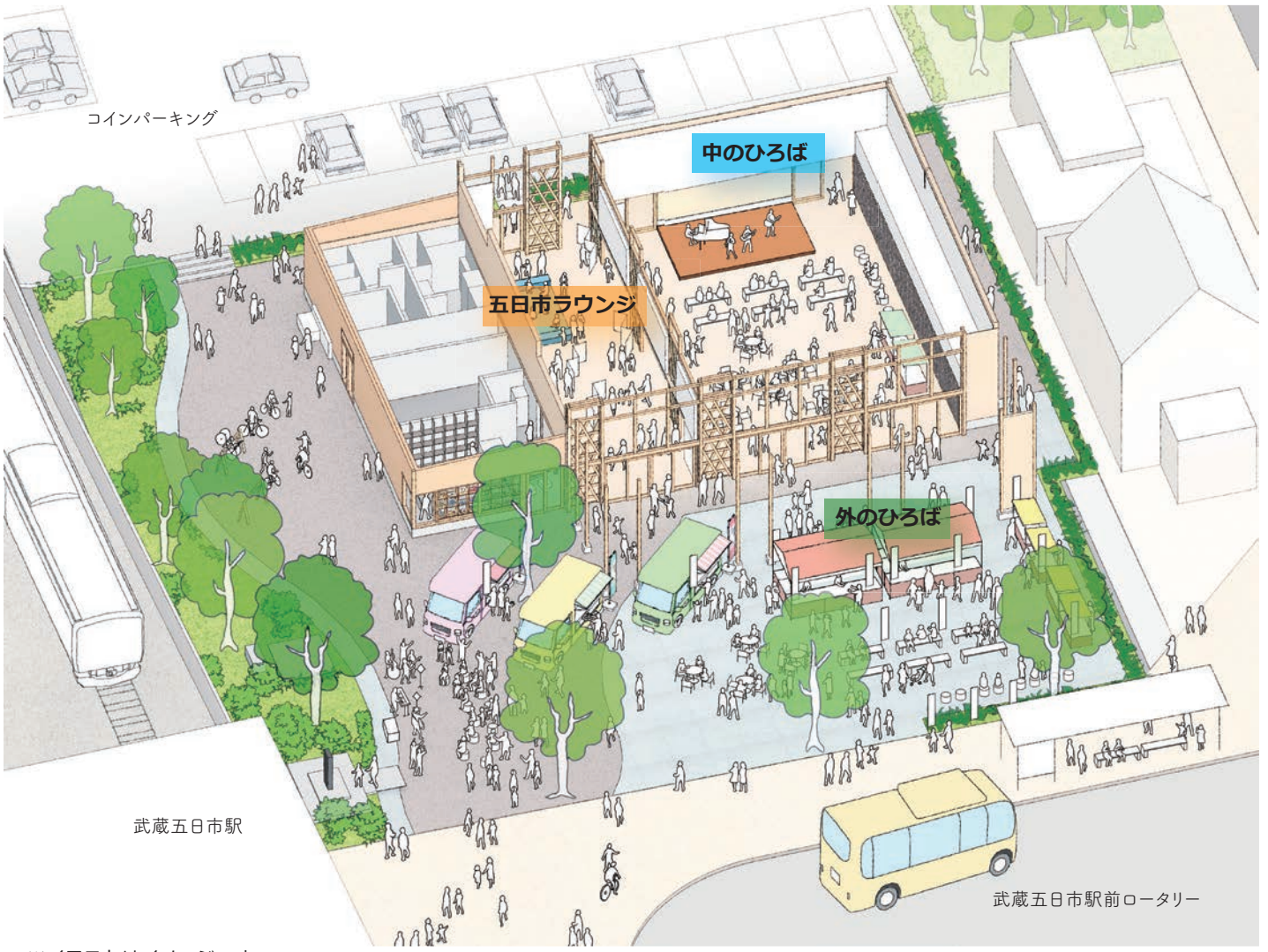
今号の主な記事など

- 高額介護合算療養費の申請書を送付…２面
- 国民年金保険料の納め忘れはありませんか…２面
- 文化財講座「春日明神社小型海獣葡萄鏡（こがたかいじゅうぶどうきょう）」…３面

武蔵五日市駅前拠点施設の整備計画を進めています

～みんなのWell-beingの実現のために～

拠点施設は、武蔵五日市駅前市有地活用計画（令和５年８月策定）に基づき、市有地（現在のコインパーキング）の一部に整備を予定しています。市有地活用計画の基本理念「『活力と想像力を満たす学習の場』～みんなのWell-beingの実現のために～」を実現するため、現在、設計作業を進めており、拠点施設には、中のひろば・五日市ラウンジ・外のひろば（仮称）をつくることとしています。



※イラストはイメージです

どんな施設？

市では、武蔵五日市駅前市有地の活用に向けた基本的な考え方（基本理念）を「『活力と創造力を満たす学習の場』～みんなのWell-being の実現のために～」としています。この考え方を実現するために、拠点施設は、次の４つの場所として活用することとしています。

情報等の発信を行う場所

・秋川流域の魅力を伝え、市有地に訪れた人々が流域における回遊性、滞在性を更に高められるよう、観光スポットなどの情報とともに、地域資源や特産品、アクティビティ、移住などに関する情報も発信する場所

様々な人が集い、学び、憩うことができる場所

・各種のイベント等を通じて、観光客、地域住民などの多様な人々が集い、学び、憩い、思いを共有できる場所

・交通結節点である武蔵五日市駅前に隣接していることから、観光客や通勤・通学者、地域住民が快適に滞留できる場所

地域の活性化につながる場所

・秋川流域で地域活性化の取組等を行っている様々な団体、商業者・観光事業者などと連携したイベント等を通じて、秋川流域の活性化につなげる場所

行政のまちづくりの考え方を伝えられる場所

・交流人口・関係人口の創出、定住人口の増加を視野に入れながら、移住・定住促進、自治体DXや地球温暖化対策の推進、多摩産材の利用促進、子育て支援策など、行政のまちづくりに関する考え方を伝えられる場所（武蔵五日市駅前市有地活用計画より引用）

整備までの経緯は？

武蔵五日市駅前市有地は、平成４年に、当時の五日市町が東京都の支援を受け、秋川流域４市町村が利用できる（仮）秋川流域総合センターを整備するために取得したものです。その後、社会情勢の変化などにともない、施設の整備には至らず、市有地の活用は、市にとって長年の課題となっていました。

こうしたところ、令和４年９月に就任した市長が、武蔵五日市駅前市有地の活用について、速やかに課題を解決する必要があること、観光需要の拡大に伴い秋川流域に多くの方が訪れる可能性がある（交流人口や関係人口の増加が期待できる）ことなどから、令和５年度の施政方針において、「具体的な活用方策を検討し着手していく」とし、拠点施設の整備を迅速に進めることとしました。

武蔵五日市駅前拠点施設は、令和６年度に建設工事を開始し、令和７年度に開設する予定です。

建物の規模は？

武蔵五日市駅前市有地は、整備までの経緯のとおり、建物をつくることを前提に取得しています。拠点施設は、時代に即したコンパクトなものとする予定です。また、現在の駐車場の利用状況から、１００台程度の車が駐車できるスペースを残す予定です。

（仮）秋川流域総合センター（当初の計画）
敷地面積：約5,500㎡、延べ面積：約4,000㎡
鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、地上４階地下１階

⇩

武蔵五日市駅前拠点施設（今回の計画）
敷地面積：約1,360㎡、延べ面積：約370㎡
木造、平屋建

担当課 観光まちづくり推進課
観光まちづくり推進係

世帯と人口

― 令和６年２月１日現在 ―
世帯 37,216 世帯（前月比 6 世帯増） 人口 79,475 人（前月比 38 人減） 男 39,570 人 女 39,905 人

広報あきる野は、毎月１日と15日に新聞折込と個別配布でお届けしています。市内に住所があり、折込対象の新聞を購読していない方は、市に個別配布をお申込みいただければ、無料でお届けします。また、市のホームページでもご覧になれます。詳しくは、市長公室にお問い合わせください。

再生紙を使用しています